

2011

広報

おばま 2



《表紙》

無病息災、五穀豊穰を祈る「戸祝い」が新保区で行われ、園児と児童15人が元気よく祝い歌を歌いました。子どもたちは、各家の戸口や柱などを「ばい」と呼ばれる棒でたたき、お礼にお年玉やお菓子をもっていました。

(1月8日)

【特集】市長新春インタビュー

今年市制六十周年と第五次総合計画開始の年 新しい気持ちでまちづくりを進めます

松崎市長新春インタビュー



市の広報企画番組として、正月にチャンネルOで放送した「松崎市長新春インタビュー」。その様子を抜粋して掲載します

市制六十周年

坂口 あけましておめでとうございます。

昨年一年間、公約実現のために取り組まれた事柄などを振り返っていただきながら、今年の抱負についてお話を伺いたいと思います。

今年是小浜市が市制を施行して六十年に当たるといいますが、

市長 小浜市が昭和二十六年三月三十日に市制を施行して、本年は記念すべき六十年目にあたる年となります。六十年という、人間に例えると還暦にあたり、本市としても大きな転換期となる節目の年であると考えています。

小浜市は、豊かな自然環境に恵まれ、誇れる歴史や文化とともに、これまで多くの先人達の努力により、

若狭地域の中核都市として発展してきました。この記念すべき年を迎えるにあたり、舞鶴若狭自動車道小浜インターチェンジ（以下IC）の開通式を皮切りに、夏から秋にかけて記念式典や様々なイベントを通じて先人の苦労や業績に感謝し、市民の皆さんとお祝いしたいと思います。

舞鶴若狭自動車道

坂口 今ほど話にありました舞鶴若狭自動車道は、どのような進捗状況になっているのでしょうか？

市長 舞鶴若狭自動車道は、中国自動車道や名神高速道路、北陸自動車道とつながることで、関西圏、東京圏、北陸圏の広域ネットワークが形成され、若狭地方の産業の振興や

観光振興とおばま観光局

坂口 そうしますと、観光客など、来訪者をもてなすため、昨年創設されました観光局の役割が重要だと思いますが。

市長 おばま観光局は、民間と行政が連携し、それぞれの利点を生かした取り組みで、まちなかの賑わい創出や市全体の活性化を目指すものです。発足と同時に、自社独自商品として、お水送りで有名な鶴の瀬の水のペットボトル化による販売や十月のOBAMA食のまつりの企画実施、十一月の旬鮮市の開催、十二月のご当地グルメ開発グループによるグルメフェスタの開催など、発足以後の短い間に様々な事業を展開しました。さらに、はまかせ通り商店街イベントとの連携などで相乗効果を生み出し、まちなかの賑わい創出と合わせ、地産地消や特産品などの地域資源を生かしたご当地グルメの開発、発信などができたと考えています。

本年は、地域の皆さんが主体となった、その地域ならではの特色を生かした体験観光の事業化、仕組みづくりに積極的に取り組みたいと思

います。ちなみに、体験観光としては、ブルーパーク阿納の魚釣りやさばき体験が好評を得ていますので、これを踏まえ、他の地域でも農業、林業分野にも拡大できればと考えています。

そして、まちなかはもとより、遠敷や松永地区の神社仏閣を代表とする文化財群へ観光客を誘導することで、回遊性を高め、地域を活性化したいと考えています。

小浜西組の重伝建地区に目を向けると、町並みを活用したギャラリー、常高寺前の参道を活用した緑日の開催など、地元地域住民主体の参加

中心市街地の活性化

坂口 舞鶴若狭自動車道通行料の無料化社会実験も続いていますし、観光客など、来訪者が増加して、まちなか元気になるのが楽しみです。その受け皿となる市街地の活性化については、どう取り組まれるのでしょうか。

市長 中心市街地の活性化のため、一昨年から小浜市中心市街地活性化基本計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて取り組んできました。そして、昨年「集い、憩い、楽しめ、元気に暮らせるまち『若狭おばま』」を基本理念とする計画の骨子がまとまりました。

中心市街地は高齢化、空洞化が進み、また、商店街もシャッターが閉まっている店舗が多く見られ、賑わい創出に向けた取り組みが急務であります。幸い、本市の中心市街地は、波穏やかな海に面し、また国の重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けるなど、自然と歴史に恵まれた素晴らしい環境にあり、こうした資源を持つ中心市街地は大きな財産だと考えています。また、舞鶴若狭自動車道の小浜ICが今年夏に供用

開始しますので、多くの観光客の流入も期待できます。

そうしたことから、つばき回廊商業跡地を「まちなかの駅」、食文化館を「海の駅」として位置付け、小浜ICの玄関口である「道の駅」を合わせた三駅連携構想というものを考えています。これにより、まちなかへ観光客などを誘客すべく、現在構想の詳細を検討中です。特に重要となる「まちなかの駅」については、中心市街地活性化基本計画でも市民広場、観光拠点、駐車スペース兼多目的広場の機能を有するものとして整備する方針が示されていて、「まちなかの駅」の具体的活用策も合わせて検討する必要があります。

いずれにしても、商業棟跡地は中心市街地活性化の核となる地点です。市民の皆さんの声もお聞きしながら、将来の「まちなかの顔」となるよう活用策を検討したいと考えています。

なお、つばき回廊業務棟の売却問題については、市民の皆さんにご心配をおかけしましたが、小浜信用金庫さんにまちなかの賑わい創出に対するご理解をいただき、一、二階の売却について大筋の合意をいただきましたのでこの場を借りて報告させていただきます。



OBAMA 食のまつり（平成22年11月）



子育て支援センター（平成22年4月）

市長 少子高齢化が進み、子どもを産み育てることが難しくなっている現状を踏まえ、本市では、「延長保育」「夜間保育」「すみずみ子育てサポート」「つどいの広場事業」「小

坂口 雇用を取り巻く情勢は厳しいとのことで、一層の産業振興を図られることに期待するとともに、やはり、人口減少が課題になるのではと考えますが、その意味から、少子化対策はどうでしょうか。

少子化対策

坂口 「縦貫線」酒井住吉通りもきれいに整備されましたし、小浜西組重要伝統的建造物群保存地区にも、多くの観光客に訪れてもらえると思います。

市長 小浜西組が平成二十年に重伝建地区に選定されて以来、地区内には賑わいを感じられるようになり、観光客も年々増加しています。

小浜西組重伝建保存地区

また、NHK大河ドラマ「江」が一月九日から始まりますが、ゆかりの地として常高寺と小浜城址が注目され、観光客の入り込みも期待されると思います。小浜の知名度を更に高め、この地に住むわたしたちも誇りを持ってまちづくりを進めていきたいと思えます。



ウエスト物語（平成22年5月）

昨年のイベントでは、歴史的建物を活用して、地区の歴史や文化を紹介したり、放生祭りの本稽古の様子を身近に見ていただいたり、地区に守り継がれている行事に参加していただいたりするなど、市民の皆さんをはじめ観光客に魅力を存分に味わっていただけたものと思っています。

町並みの整備については、平成二十一年度から国・県の補助事業により、従来の小規模修理と合わせて、家屋の修理・保存を進めていることから、地区内の町並みの景観も徐々に整ってきています。今後、地区内の環境整備も合わせて実施し、地区の保存に努めていきたいと考えています。

浜市子育て支援センターの設立「放課後児童クラブの開設」など、多岐に渡って子育て支援による少子化対策を実施しています。

また、子育て世代にかかる子ども医療費負担が大きいことから、これまで就学前の子どもまでを対象に行っていた医療費助成を拡大し、昨年十月からは、さらにすべての小学生と、世帯主の所得制限などがあるものの対象を中学三年生までとした医療費助成を実現しました。

このことで、子育て世代の医療費負担が大きく軽減され、小浜市での子育て環境が向上し、少子化対策につながると期待しています。

また、旧今富第一保育園の「子育て支援センター」は、若いお母さんやおばあさんに連れられたお子さんで賑わっています。このような賑やかさや明るさが、少子化を防ぐものと思っています。その意味からも、何よりまち全体が活力を取り戻すことが大切だと思っています。

小学校の統合再編

坂口 さて、昨年、小学校の統合再編について、教育委員会では各地

企業誘致・雇用対策

坂口 産業の振興についてですが、企業誘致や雇用対策についてお話を聞かせて下さい。

市長 私のマニフェストである「自ら先頭に立って小浜の風土に合う活力ある企業を誘致し、若者の雇用の確保に努める」を実践し、市長就任以来、積極的に私自身トップセールスを展開してきました。その甲斐あって、昨年には旧ポリテクセンター小浜分所跡地に、日本ユニシス株式会社の小浜データセンターの誘致が正式決定したところです。日本ユニシスは、昭和三十三年の設立以来、我が国の情報通信産業を支え続けてこられたIT企業であり、ネットワーク経由で情報処理サービスを利用するクラウドコンピューティングの時代を迎え、本市での更なる事業拡大を期待しているところなんです。こういう最先端のデータセンターが小浜にできるといえるのは、これからの産業にとって非常に大きな意義があると思っています。

また、日本電産シバウラ株式会社の新築移転については、昨年、地質調査が実施されるなど、大きな前進

区を説明に回られたとお聞きしていますが、今後、市としてどう進まれるのでしょうか。

市長 平成二十一年末から、教育委員会が中心となって各地区の区長や役員の皆様に市の考えを説明してきました。特に、東部四地区の宮川、松永、遠敷、国富の四校の統合再編や田鳥小学校と内外海小学校との統合を進めるために、優先して住民の皆さんを対象とした説明会も開催してきました。

その結果、田鳥地区については、平成二十四年四月から内外海小学校に通学することの同意をいただき、現在、その諸準備を進めています。また、東部四地区の小学校統合についても、今年から、建設に向けて具体的な協議の場を設けることとなります。

このような統合再編は、子供たちに切磋琢磨できるよりよい教育環境を提供するためといえ、地域の皆さんに苦渋の決断をお願いすることでもあります。市としては、地域の皆さんのご理解を得られるよう、誠意をもって話し合いを進めていきたいと考えています。

また、地元製造企業にも、工場の拡張計画などがあり、こうした地元企業への支援も含め、雇用の場の確保という観点から、鋭意、企業誘致に取り組みたいと考えています。



日本ユニシス小浜データセンター完成予想図

雇用を取り巻く情勢は、長引く景気の低迷を受け、近年にない厳しい状況ですので、今後も精いっぱい努力していきます。

を見るどころです。現在、同社からは新築に向け、実施設計や建築確認申請などの準備段階にあるとの情報を得ており、一日も早い新築移転の実現に向け、引き続き、連携を密にしていきたいと考えています。

陸上競技場

また、地元製造企業にも、工場の拡張計画などがあり、こうした地元企業への支援も含め、雇用の場の確保という観点から、鋭意、企業誘致に取り組みたいと考えています。

市長 平成七年竣工の小浜市総合運動場陸上競技場は、十五年余りを経過し、第三種公認競技場として公認更新を受けようとする、改修の必要があります。関係者からの要望もいただき、市民の皆さんにご心配をお掛けしましたが、日本スポーツ振興助成金（totokij助成）を受けて、改修に着手することができました。春には改修を終え、公認競技場として皆さんにご利用いただきたいと思います。

鳥獣害対策

坂口 郊外に目を向けてみますと、昨年は、クマの出没や、有害鳥獣による田畑への被害が激増したと伺っています。

市長 昨年も各地区の夢トークの中で有害鳥獣に対する意見や要望などを聞かせていただき、たいへん被害が増えていることを実感しました。

昨年夏の猛暑の影響で、野山の木



鳥獣害みんなでストップ座勉強会（平成22年5月）

の実など餌が不足したといわれ、クマが人里まで下りてきているところを目撃されたり、イノシシやシカによる田畑への被害情報が大変多く寄せられたりしました。幸い、市民への被害はありませんでしたが、特にシカによる農作物などへの被害は深刻で、営農意欲の低下や車との接触事故など、社会問題となっています。本市の鳥獣害対策としては、恒久金網柵や電気柵、緩衝帯などの設置による侵入防止対策、猟友会と連携した個体数削減のための捕獲駆除、集落が主体的に対策に取り組むための勉強会、獣肉を有効活用するイベントなどを実施しているところです。

また、シカを捕獲する新技術として、少人数で夜間に捕獲可能なドロップネット方式「OBAMAビーストキャッチ」というものを、自らが農業者であり猟友会員でもある二人が考案され、効果を上げておられます。今後は、この「OBAMAビーストキャッチ」の普及促進も行いながら、適切な個体数まで削減させるよう努力していきます。

それから、獣肉有効活用として、栄養士・調理師の嘱託職員二人を雇用し、狩猟肉をはじめとした料理の研究、開発を行っています。昨年十月に開催した「OBAMA食のまつ



シカ肉の肉まんじゅう

り」では、シカの肉を利用した、たこ焼き風の料理を試食していただき、十二月のOBAMAグルメフェスタでは、シカ肉の肉まんじゅうを提供し、いずれも高い評価をいただきました。

今後、地域に応じた集落ぐるみの対策、防除技術などを協働して実施し、被害の抑制に努めていきたいと考えています。

夢トーク

坂口 先ほど少しお話がありました。昨年も「市長と夢トーク」を実施され、各地区を訪問されたようですが？

市長 市長就任以来、市民の皆さんと直接話して、信頼を築くことこそ市政運営の根本と考え、各地区ごとに夢トークを行ってきました。一昨年は、各地区のいきいきまちづくり委員からの地域の取り組みをお聞きしましたが、昨年は、私から市の事業や財政状況などについて報告をさせていただきました。

確かに、地域の皆さんと意見交換をしますと、本当にいろいろな課題があり、市としての役割と責任を一層感じました。地区によっては、自ら取り組まれているまちづくりについての報告もありました。松永地区のビオトープ施設の整備や直売所のオープン、中名田地区の田村の里ファームなどに感心させられました。

一方で、それぞれの地域の道路改良や防災対策など日々の利便性や安全安心への対策も求められました。鳥獣害や少子化、雇用への不安なども直接聞くことができました。

このような地域の皆さんのニーズにきめ細やかに対応していかなければならないと考えています。今年も、引き続き、各地域の皆さんからさまざまなご意見やご提案をいただき、市民の皆さんとの協働で市政運営に取り組んでいきたいと思っています。

今年の抱負

坂口 最後に市長の今年にかかる抱負をお伺いします。平成二十三年、今年はどうな年にしたいとお考えでしょうか。

市長 市民の皆様には、ご健勝で新年を迎えられたことを心からお慶び申し上げますとともに、私は今年、任期四年の折り返しを経て三年目を迎え、市長就任時の初心に立ち帰り、市が抱える諸課題、諸施策について、全身全霊を傾け、「ワクワクできるまち 小浜」のまちづくりに臨んでいきたいと考えています。

本年は、第五次総合計画の始まりの年となります。また、市制六十周年で還暦ということになり、暦が一周回って一番始めに戻ってくる。そういう意味でもスタートの年にあたることから、新しい気持ちですばらしいまちを作っていくために全力でがんばっていききたいと思っています。

本年も、市民の皆様の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財政運営

坂口 市長のマニフェストに沿って地域の発展にご努力いただいておりますが、小浜市の財政状況についてはどうでしょうか。

市長 平成二十一年度普通会計の決算では、一年間の経営状況を示す、「実質単年度収支」が約一億七千万円の赤字となり、同十六年度から四年間連続で続いています。赤字が、昨年度に引き続き二年連続して赤字に好転することができました。

また、地方債残高が昨年より約三億七百万円減少するとともに、公債費による財政負担の程度を示す「実質公債比率」も昨年度より改善しました。さらに、財政の弾力性を示す「経常収支比率」もよくなってきました。私のマニフェストの一番に掲げている「財政改革の断行」の成果が徐々にありますが出てきているものと思っています。

しかしながら今後は、歳入では景気低迷による市税の減少、歳出では平成二十三年度に起債の償還金のピークを迎えることや社会保障関係経費の増加が予想されることから、ここ二年間は厳しい財政状況が続く

第五次総合計画

坂口 現在、小浜市の将来ビジョンである「第五次総合計画」の策定に向け、作業を進められているとお伺いしていますが、今後の小浜市全体としての構想をお聞かせいただけますか。

市長 平成二十三年度は、今後十年間のまちづくりの指針である「第五次小浜市総合計画」のスタートの年です。総合計画は、市が進めている様々な計画の中でも、最も上位に位置づけられる長期計画です。すべての政策や取り組みは総合計画に基づいて行われるため、市民の皆さんにとっても大変重要な計画となります。外部専門委員会や総合計画審議会などで、さまざまな分野の方から貴重な意見をいただき、昨年度から策定作業を進めています。今回、第五次

総合計画の目指す将来像を「夢、無限大」感動おばま」自然と文化が織りなす 地域力結集プラン」としました。市民ひとりひとりが、自然、歴史、文化などの地域資源を発見・認識することで深く心を動かされ、自ら感じ、自ら動き、夢に向かってチャレンジする。その取り組んでいる姿が、市民はもちろん、小浜を訪れる人の心にも響き、感動をもたらします。そして、市民・団体・事業者・行政、それぞれが持つ地域力を結集し、若々しく希望に満ちた躍動感あふれるまちを目指します。決して受け身でなく、自ら夢を描き、つかんでいく、そのプロセスで感動を覚えていく、感動が生まれてくる、それが市民との協働であると考えています。

これまで、第四次総合計画で取り組んできました「食のまちづくり」も、相応の評価をいただきましたが、産業の振興や健康長寿への取り組みなど課題も残っています。今後は、第五次総合計画を着実に推進していくため、協働のまちづくりにより、共に考え、共に汗をかきながら各施策に取り組みでいきたいと考えていますので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

もうお済みですか？地デジ化！

～アナログ放送の終了まで、あと半年をきりました～

本年7月にアナログ放送が終了し、それ以降は地上デジタル放送（以下 地デジ）対応の受信機器がないとテレビを見ることができません。地デジを見るための対応はもうお済みでしょうか？

アナログ放送が終了する直前は機器または対応テレビの設置などの作業が集中するおそれがあります。まだの人は、早めに「地デジ対応」を検討してください。

■地デジを見るためには…

地デジを見るためには、地デジ対応のテレビを買うか、地デジ用のチューナーを現在持っている地デジ未対応のテレビ（いわゆるアナログテレビ）につなぐなどの準備が必要です。
また、チャンネル0に加入している場合と加入していない場合では、その方法も変わるため分けて説明します。
※家庭にテレビが複数台ある場合、それぞれ対応が必要となりますが、ここでは分かりやすくするため1台目を対象として説明します



チャンネル0に加入していない人

■問い合わせ 総務省 福井県テレビ受信者支援センター
(デジサポ福井) ☎ 0776・31・0101

① UHF アンテナを設置していますか？



はい
受信方向を確認する必要があります。また、一部の地域（山間部やビルの陰など）では受信できない場合があります。

いいえ
UHF アンテナを新たに設置する必要があります。詳しくは、電気店、家電量販店にお問い合わせください。または、ケーブルテレビに加入する（詳しくはチャンネル0にお問い合わせください）。

② テレビは地デジに対応していますか

はい 地デジが視聴できます。

いいえ

- ①地デジ対応テレビを購入する
- ②地デジ対応チューナーを購入する

いずれかの対応が必要です。

■何か助成（補助）制度はあるの…

総務省では、経済的な理由などで地デジが見られない世帯などを対象に簡易な地デジチューナーを無償給付するなどの支援を行っています。
対象は、これまでのNHK受信料全額免除世帯のほか、**1月24日から新たに市民税非課税世帯も該当**しました。支援内容や申込書はそれぞれ異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ 総務省 地デジチューナー支援実施センター

市民税非課税世帯への支援



【支援内容】
簡易チューナー（1台）を無償給付します。また、設置方法と操作方法を電話でサポートします

【対象】
世帯全員が市民税非課税の措置を受けている世帯で、まだ地デジに対応できていない世帯
※ NHK との放送受信契約が必要です

■問い合わせ ☎ 0570・023724

NHK 放送受信料全額免除世帯への支援

【支援内容】
簡易チューナー（1台）を自宅に訪問して設置します。また、必要な場合は屋外アンテナの改修工事も行います

【対象】
「生活保護などの公的扶助を受けている」「障がい者がいる世帯で、世帯全員が市民税非課税」「社会福祉事業施設に入所して、自らテレビを持ち込んでいる」
上記世帯で、NHK 放送受信料全額免除世帯

■問い合わせ ☎ 0570・033840

チャンネル0に加入している人

■問い合わせ チャンネル0 地デジ相談窓口 ☎ 0120・960・721

セットトップボックス (STB)



セットトップボックス (STB) が設置されているテレビでは**地デジが視聴**できます。
そのままご覧ください。

ホームターミナル



ホームターミナルが設置されている場合、**セットトップボックス (STB) に交換する必要があります**。アナログ放送終了時期に近づくと込み合うことが予想されます。なるべく早めにチャンネル0へご連絡ください。
※別途工事費が必要です

セットトップボックス (STB) もホームターミナルも設置されていない場合は、基本番組1に契約されています。
お持ちのテレビが、地デジ対応のテレビであれば地デジは視聴できます。
しかし、地デジ対応のテレビでなければ、
①**地デジ対応のテレビを購入する**
②**地デジ対応チューナーを購入する**
③**基本番組2または3に変更する**
のいずれかの対応が必要となります。